

中 学 校

平 成 5 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

保 健 体 育

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 5 年度

教育研究員名簿（保健体育）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
I 器 械 運 動	北	紅 葉 中 学 校	井 上 敏 幸
	江 戸 川	小松川第一中学校	◎ 江 崎 義 夫
	板 橋	西 台 中 学 校	江 原 賢 一
	福 生	福生第二中学校	菅 野 武
	町 田	鶴 川 中 学 校	小 町 義 幸
	府 中	府中第一中学校	横 田 佐 知 子
II 球 技	足 立	花 保 中 学 校	浦 田 一 美
	武蔵村山	第 二 中 学 校	○ 大 越 洋 一
	品 川	八 潮 南 中 学 校	加 藤 隆 司
	港	芝 浜 中 学 校	熊 谷 尚 夫
	日 野	日野第四中学校	鈴 木 直 也
III 武 道 ス タ ン ダ ー ド	葛 飾	立 石 中 学 校	黒 澤 晴 男
	練 馬	石 神 井 西 中 学 校	後 藤 彰
	世 田 谷	喜 多 見 中 学 校	権 藤 義 彦
	小 金 井	南 中 学 校	高 石 正 伸
	大 田	大 森 第 四 中 学 校	西 嶋 幸 子

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁体育部体育健康指導課長

高 田 日 呂 美

教育庁体育部体育健康指導課指導主事

藤 崎 武 利

目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究のねらいと仮説	2
III	研究の方法	3
IV	研究の全体構想図	4
V	研究の内容	5
1	ティームティーチングのあり方	5
2	器械運動	6
(1)	意識調査の結果と考察	6
(2)	特性	7
(3)	指導計画作成上の留意点	
(4)	学習指導の工夫	7
(5)	指導計画	8
(6)	実証授業指導案	9
(7)	資料	10
(8)	本時の結果と考察	11
3	球技（バレーボール，バスケットボール，バドミントン）	12
(1)	意識調査の結果と考察	12
(2)	特性	13
(3)	指導計画作成上の留意点	
(4)	学習指導の工夫	13
(5)	指導計画	14
(6)	展開例	15
(7)	資料	16
(8)	本時の結果と考察	17
4	武道・ダンス	18
(1)	実態調査の結果と考察	18
(2)	特性	19
(3)	学習指導の工夫	
(4)	指導計画	20
(5)	実証授業指導案	21
(6)	資料	23
(7)	本時の結果と考察	23
VI	研究のまとめと今後の課題	24

I 研究主題設定の理由

21世紀を間近にひかえ、社会は複雑化し流動的になり先の見えにくい不透明な時代を迎えつつある。また、高齢化社会、少子化、国際化などの時代の変化にともない、学校においても教育内容、教育方法の時代に対応した改善・工夫が強く求められている。

即ち画一的な一斉授業による学校教育から、それぞれの生徒のもっている個性を伸ばし、その長所をいかに伸ばしていくかが、学校教育に与えられた大きな使命となってきている。

これらを背景として学校体育においても選択制授業の実践や楽しい授業の工夫が求められているとともに、生徒一人一人が課題をしっかりと持ち、意欲的に学習に取り組むことが体育授業の大きなポイントとなっている。

そこで、今年度は一人一人の生徒が個性や能力に応じて種目や内容を選択し、課題をもって意欲的に学習する授業について研究することが必要であると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらいと仮説

1. 研究のねらい

研究主題を受け、運動の特性に触れる楽しさを味わわせる授業展開を工夫しながら、生徒が楽しく意欲的に学習していくための場の広がりや、楽しさだけに流されず、課題をもち、主体的に学習に取り組むための意識づけを重視し、特に次の2つに研究のねらいをおいた。

- (1) 選択制授業とチームティーチングの工夫。
- (2) 課題のもち方と課題解決の仕方の工夫。

2. 研究の仮説

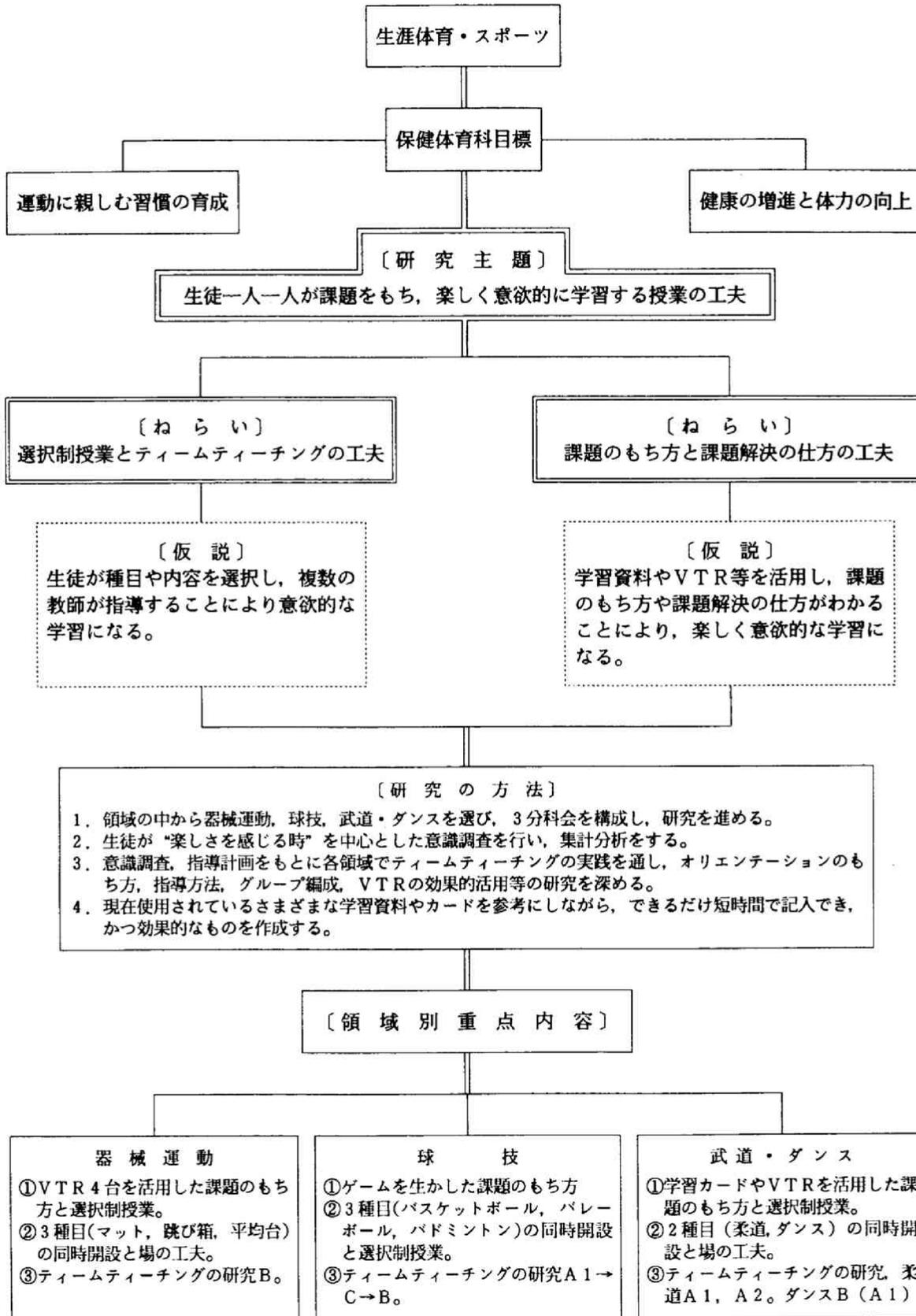
- (1) 生徒が種目や内容を選択し、複数の教師が指導することにより意欲的な学習になる。
- (2) 学習資料やVTR等を活用し、課題のもち方や課題解決の仕方がわかることにより、楽しく意欲的な学習になる。

Ⅲ 研究の方法

1. 「器械運動」「球技」「武道・ダンス」の3分科会を設定し、研究を進めた。
2. 生徒が「楽しさを感じる時」を中心として、各領域、種目ごとの意識調査を行った。
3. 各分科会ごとに種目選択、男女共習を実施し、チームティーチングの実践を通しその研究を深めた。対象学年は2年生とした。
 - (1) 「器械運動」ではマット、跳び箱、平均台を同時に開設し、その中から2種目を生徒選択とし男女共習で行った。チームティーチングについては、2名の教師によりパターンBを基本にVTR4台を使用し、課題のもち方と場の工夫に生かした。
 - (2) 「球技」ではバスケットボール、バレーボール、バドミントンを同時に開設し、その中から1種目を生徒選択とし男女共習で行った。チームティーチングについては、2名の教師によりパターンA1とCを基本に担当の仕方を工夫し、必要に応じてBを取り入れながら研究を行った。課題のもち方としてゲームの取り入れ方を工夫した。
 - (3) 「武道・ダンス」では柔道、ダンスを同時に開設し、その中から1種目を生徒選択とし男女共習で行った。チームティーチングについては、柔道ではパターンA1、A2を基本に、ダンスではパターンBを基本に場の変化によってA1からBへの研究を行った。学習カード、VTR、BGM等を活用し、課題のもち方と場の工夫に生かした。
4. 各分科会ごとに学習資料、学習カードの作成と使い方の研究を行った。

※チームティーチングのパターンについては5ページを参照のこと。

IV 研究の全体構想図



V 研究の内容

1. ティームティーチングのあり方

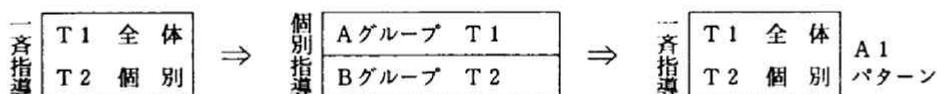
(1) ティームティーチングの意義

ティームティーチングのねらいは、生徒の能力や適性等に応じた指導、すなわち個人差への対応という面から、従来の一斉指導では十分に対応できない生徒への学習指導を効果的に行うことにある。また、教師一人が指導を行うより、チームを組んで指導を行うため、教師の専門性や持ち味を生かした、よりきめ細かい指導が可能となる。

(2) ティームティーチングの指導形態

① 学習課題に応じたティームティーチング……………A1パターン, A2パターン

・個別の課題を学習する際に、T1とT2とでそれぞれの課題別グループを指導する。

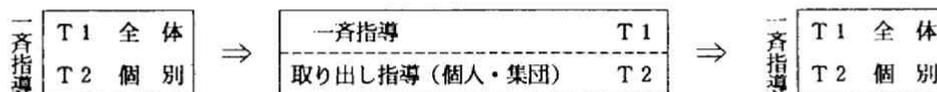


・学習したい課題ごとに分かれ、T1とT2とでそれぞれの課題の指導に当たる。



② 習熟度に応じたティームティーチング……………Bパターン

・習熟の程度に応じてT1とT2の役割分担を行い指導する。



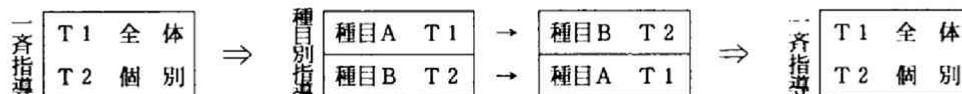
③ 指導場所が2ヶ所になるティームティーチング……………Cパターン

・校庭、体育館などに学習の場が分かれる場合、時間や学習内容に応じT1とT2が入れ替わる。



④ ローテーション指導によるティームティーチング……………Dパターン

・一定の時間で生徒が種目を移動する方法であり、教師の専門性を生かすことができる。



(3) 指導上の留意事項

- ① どのような課題に対応するための指導方法の工夫や改善なのかを明確にする。
- ② 教師チームの役割を明確にし、教師の専門性や持ち味を生かすきめ細かい指導を行う。
- ③ 自主的に学習できるような目標や課題の持ち方、グループ編成の仕方の工夫を行う。

2. 器械運動

(1) 意識調査の結果と考察

① 意識調査について

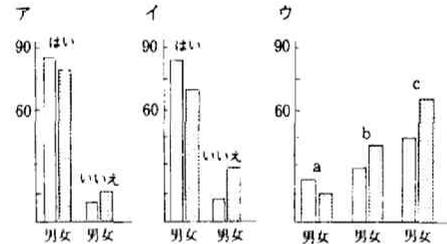
ア. 時期 平成5年6月

イ. 対象 研究員所属校第2学年 男子 511名・女子 482名 合計 993名

② 結果(数値はすべてパーセント)

Q1. 体育の授業について教えてください。

- ア. 楽しく参加していますか。
 イ. 意欲的に参加していると思いますか。
 ウ. 男女一緒にの授業についてどう思いますか。
 a 良いと思う
 b 種目によっては良いと思う
 c わからない

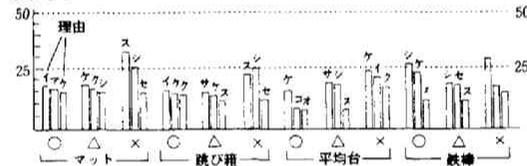


Q2. 器械運動について質問に教えてください。

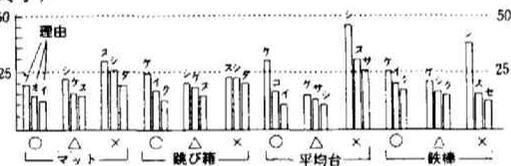
ア. あなたがやっていると楽しいと思う種目については○, 普通の種目には△, 嫌いな種目には×をつけてください。(必ずつけてください) また, その理由に近いものを下記の欄から選んでください。(いくつ選んでも良い)

ア) 器械運動が得意だから	キ) 補助してあげた友人ができたから	ス) 器械運動が不得意だから
イ) 技ができたから	ク) 自由に練習できるから	セ) 下手だと思われるのが嫌だから
ウ) ほめられたから	ケ) 頑張ればできるから	ソ) 他の種目より疲れるから
エ) 技が上手にできたから	コ) 他の種目より楽だから	タ) 次の日身体が痛くなるから
オ) 友達同士互いに教えあえるから	サ) けがをするのが怖いから	チ) その他()
カ) 適切なアドバイスが受けられたから	シ) 技が上手にできないから	

〈男子〉

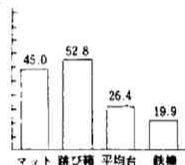


〈女子〉

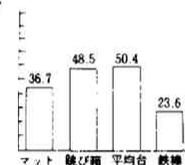


イ. マット・跳び箱・平均台・鉄棒の中で, これからやってみてみたいと思うものはどれですか。2つ選びなさい。

〈男子〉



〈女子〉



③ 考察

Q1. について

ア・イ. 「いいえ」と答えた生徒が男子は1割, 女子は2割を占めるが, 多くの生徒は「楽しく・意欲的に参加している」と答えている。

ウ. 男女共習授業について, 女子は男子に比べ否定的であるが, 種目によっては肯定的に思っている数はむしろ女子が男子を上回る。

Q2. について

ア. マット…好きな理由は(イ. 技ができたから)(ケ. 頑張ればできるから)に, 嫌いな理由は(ス. 不得意だから)(シ. 上手にできないから)に集中している。また, 女子の特徴として(タ. 次の日に体が痛くなるから)という回答が19%も見られる。

跳び箱…種目のイメージで「技ができない」と回答する生徒が多かった。

平均台…経験者がいない割には「やってみてみたい」と回答する生徒が多かった。

鉄棒…男女共「技が出来ないから」が圧倒的に多かった。

イ. 4種目から2種目の選択では, 男女共跳び箱が圧倒的に多く, マット, 平均台がそれに続き, 鉄棒は特に少なかった。

(2) 特 性

① 一般的な特性

- ア 器械運動には、鉄棒・跳び箱・平均台・マット運動があり、回転・跳躍・支持・バランスなどの運動で、いろいろな技に挑戦するスポーツである。
- イ 自己の技能に適した課題を持ち、組み合わせやとび方を工夫することによって、できない技ができるようになったり、よりよくできるようになったりする喜びを味わうことのできる運動である。
- ウ 器械・器具の安全を確かめ、正しい練習方法を知り、安全に運動できる能力が必要である。
- エ 比較的やさしいものから技術的に難しいものへと、ひとつひとつ克服しながら練習することができる。

② 生徒から見た特性

- ア 不安感・恐怖感がある。
- イ 挑戦した技ができた時に満足感が得られる。
- ウ 互いに補助したり、技のできばえを確かめ合いながら練習することができる。

(3) 指導計画作成上の留意点

- ① 自主的に活動できるように、VTRや学習カード、その他の資料が活用できる時間や場を設定する。
- ② 男女共習・複数教員のチームティーチングとし、その役割を明確にする。
- ③ 各自が選択した種目・技を、お互いに協力をして、できばえを伸ばせるような場の工夫、配慮をする。

(4) 学習指導の工夫

- ① VTRや学習資料により、運動の特性を理解させ、自らの課題をつかませる工夫をする。
- ② チームティーチングにより課題解決の方法を見つけられるようなアドバイスの工夫をする。
- ③ 用具の準備方法と設置、および、それにともなう安全の確認についての工夫をする。
- ④ 互いの声かけやアドバイスによって、楽しい授業になるような工夫をする。

(5) 第2学年器械運動単元指導計画（マット・跳び箱・平均台）

ねらい ・器械運動の特性を知り、自ら進んで楽しく学習する。

・自己の能力にあった課題をつかみ、その達成に向けて意欲的に学習する。

・互いに協力をして、安全に楽しく学習する能力を身につける。

学 習 4 1 時 間	共通 学 習	<p>オリエンテーション（2時間）</p> <p>ねらい ・器械運動の種目と技の確認をし、自己の能力を把握する。 ・自己の能力に応じた技の決め方、課題解決のための練習の工夫を互いに協力して計画的に行う。</p>								
		<table border="1"> <tr> <td> <p>① 授業の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目の確認。 ・カードの使用法。 ・用具の準備と設置の仕方。および、それにともなう安全の確認について。 ・VTRにより、いろいろな技を見る。 ・T・Tによる学習の進め方。 ・グループ学習の進め方。（リーダーの決め方） </td> <td> <p>② 授業の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性を理解する。 ・自己の能力を確認し、課題を把握する。 ・授業を安全に行えるようにする。 ・学習カードやVTR、その他の資料の活用の方法を理解する。 </td> </tr> </table> <p>① 学習活動（2時間）</p> <p>◇今まで学習をした技を行い、自己の能力の確認をする。</p>			<p>① 授業の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目の確認。 ・カードの使用法。 ・用具の準備と設置の仕方。および、それにともなう安全の確認について。 ・VTRにより、いろいろな技を見る。 ・T・Tによる学習の進め方。 ・グループ学習の進め方。（リーダーの決め方） 	<p>② 授業の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性を理解する。 ・自己の能力を確認し、課題を把握する。 ・授業を安全に行えるようにする。 ・学習カードやVTR、その他の資料の活用の方法を理解する。 				
<p>① 授業の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目の確認。 ・カードの使用法。 ・用具の準備と設置の仕方。および、それにともなう安全の確認について。 ・VTRにより、いろいろな技を見る。 ・T・Tによる学習の進め方。 ・グループ学習の進め方。（リーダーの決め方） 	<p>② 授業の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性を理解する。 ・自己の能力を確認し、課題を把握する。 ・授業を安全に行えるようにする。 ・学習カードやVTR、その他の資料の活用の方法を理解する。 									
学 習 9 2 時 間	個別 学 習 1 時 間	<p>ねらい1……自分が今もっている技の習熟をはかる</p> <p>① 学習活動（4時間）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>マット</th> <th>跳び箱</th> <th>平均台</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>今、できる技や得意な技を組み合わせ、それらが円滑にできるようにする</td> <td>今、できる技や得意な技を、安定した動作でできるようにする。</td> <td>今、できる技を安定した動作でできるようにする</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇自己の課題を確認する。 ◇選択種目の確認をする。（3種目から2種目選択） ◇練習を工夫したり、お互いに教え合ったりする。 ◇お互いに補助しあうなど、安全に留意しながら学習する。</p>			マット	跳び箱	平均台	今、できる技や得意な技を組み合わせ、それらが円滑にできるようにする	今、できる技や得意な技を、安定した動作でできるようにする。	今、できる技を安定した動作でできるようにする
		マット	跳び箱	平均台						
今、できる技や得意な技を組み合わせ、それらが円滑にできるようにする	今、できる技や得意な技を、安定した動作でできるようにする。	今、できる技を安定した動作でできるようにする								
<p>ねらい2……頑張ればできそうな技や新しい技に意欲的に挑戦する</p> <p>② 学習活動（5時間）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>マット</th> <th>跳び箱</th> <th>平均台</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>頑張ればできそうな技や新しい技に挑戦し、めあてをもって計画的に練習をする。</td> <td>頑張ればできそうな技や新しい技に挑戦し、よりダイナミックに円滑に行えるようにする。</td> <td>頑張ればできそうな技や新しい技を組み合わせ、バランスのとれた身のこなしができるようにする</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇ねらい①で学んだことから、もう一度自己の能力を再検討し学習の課題を見つける。 ◇さらに進んだ段階でグループに分かれ、練習を工夫したり、教え合ったりする。 ◇さらに進んだ段階での学習のため、より安全に留意しながら学習をする</p>			マット	跳び箱	平均台	頑張ればできそうな技や新しい技に挑戦し、めあてをもって計画的に練習をする。	頑張ればできそうな技や新しい技に挑戦し、よりダイナミックに円滑に行えるようにする。	頑張ればできそうな技や新しい技を組み合わせ、バランスのとれた身のこなしができるようにする		
マット	跳び箱	平均台								
頑張ればできそうな技や新しい技に挑戦し、めあてをもって計画的に練習をする。	頑張ればできそうな技や新しい技に挑戦し、よりダイナミックに円滑に行えるようにする。	頑張ればできそうな技や新しい技を組み合わせ、バランスのとれた身のこなしができるようにする								
ま と め 2 時 間	指導上の留意点	<p>・自主的に無理のない練習計画を立て、自ら学習できるようなアドバイスをする。</p> <p>・お互いに補助活動などを協力し、安全に留意をして学習できるように配慮をする。</p> <p>・各自の課題を明確にさせ、それにそった学習ができるような適切な助言を行う。</p> <p>・学習資料・VTRなどを利用して、技を十分に理解できるように配慮をする。</p> <p>・VTRを活用することによって、課題をつかませ適切な助言を行う。</p>								
		<p>① 学習の発表</p> <p>・今まで学習してきた技を発表しあい、お互いに良い点を評価しあう。</p> <p>② 学習の評価</p> <p>・学習してきたことがらに対して評価を行い、今後の課題や取り組みについて話し合う。</p>								

(6) 実証授業指導案（第二学年 15時間中の8時間目）

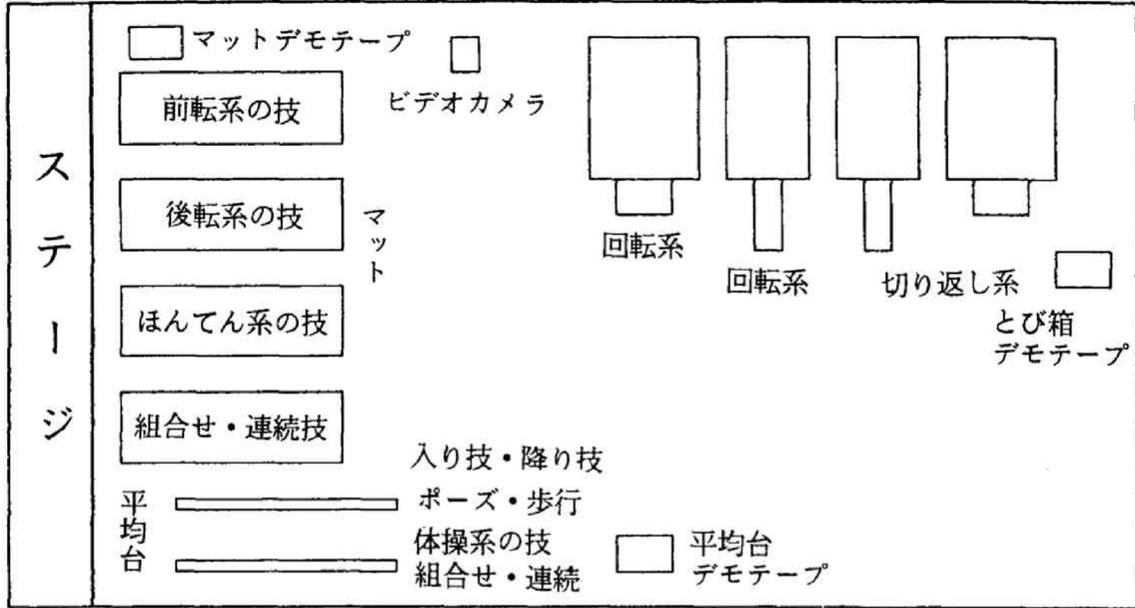
① 本時のねらい

- ア. 積極的にVTRを活用し、生徒自身が自らの習熟度確かめる。
- イ. 生徒一人一人がチームティーチングにより、より多くの適切な助言を受け楽しく意欲的に学習する。
- ウ. 頑張ればできそうな技や新しい技を見つける。
- エ. お互いに協力をしたり、安全に留意するなどして学習をする。

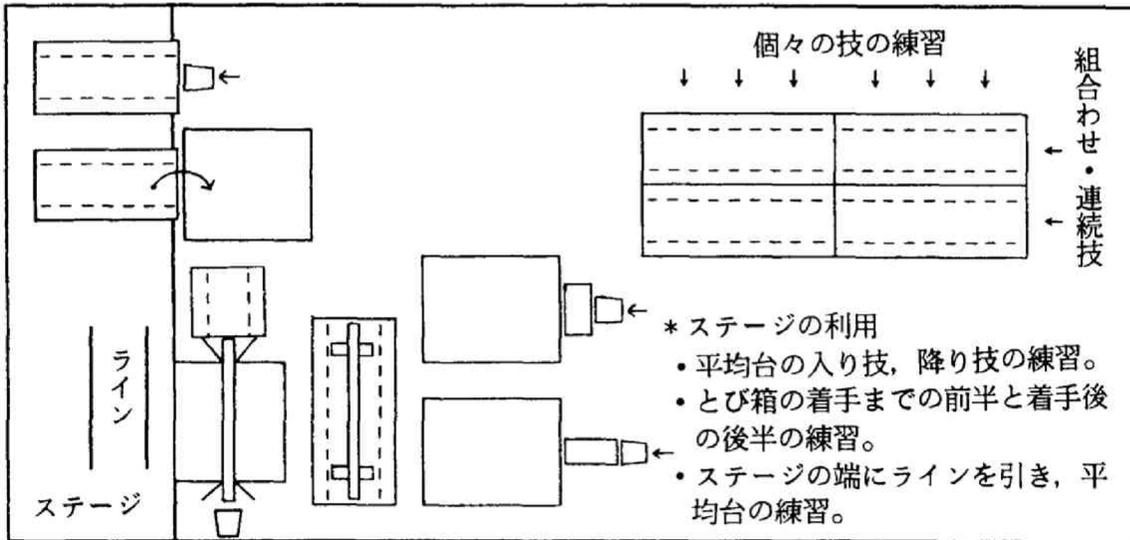
	学習の内容	学習活動	教師の働きかけ・留意点	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列、挨拶 ・出欠の確認 ・器具、用具の設置 ・学習内容の確認 ・準備運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・出欠をとる。 ・協力し、器具、用具を設置する。 ・安全の確認。 ・本時に行なう内容を確認。 ・班長が中心になり柔軟性を高めるためストレッチ体操を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の観察をする。 ・安全に器具や用具が設置できているかどうかを確認し、安全面での配慮を指導、助言する。 ・本時の内容が、確認できているかどうかを観察する。 ・適切な運動を行なっているかどうかを観察し助言する。 	
展開 35分	マット・とび箱・平均台より2種目を選択する。			
	<p>【マ ッ ト】</p> <p>【A】 ■ 前転・開脚前転 伸しつ前転・とび前転・倒立前転</p> <p>【B】 ■ 後転・開脚後転 伸しつ後転</p> <p>【C】 ■ 前方倒立回転とび・側方倒立回転</p> <p>【D】 ■ 連続技</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選択種目の練習をする。 ・資料集やデモテープをみる。 ・補助をしあい、器具、用具の工夫を行って安全に学習をする。 ・うまくできた所を評価し合う <p>・マット運動の場を4箇所設定をし各場ごとに、お互いに協力をして学習をする。</p> <p>・今までに学習した技をより正確に行えるよう練習する。</p> <p>・今までに学習した技を組み合わせで連続して行えるように練習をする。</p>	<p>【T 1】</p> <p>★生徒全体の動きを掌握し指導にあたる。</p> <p>・学習の課題がつかめているかどうかの点検を行う。</p> <p>・各種目の場を回り練習への適切な助言をしたり、場の工夫などのアドバイスを行う。</p> <p>・補助者の位置についての工夫をさせる。</p>	<p>【T 2】</p> <p>★おもに視聴覚器材などを利用しながら個別の指導にあたる。</p> <p>・時間で場のローテーションをしながら、生徒の希望により視聴覚機器を使用し、録画、再生、助言を行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇個人の課題の解決策を考えさせる。その際具体的な方法を助言する</p> <p>◇頑張ればできそうな技や新しい技を見つけるための助言をする。</p>
	<p>【とび箱】</p> <p>【A】 ■ 腕立て斜め開脚とび・腕立て水平開脚とび</p> <p>【B】 ■ かかえ込みとび屈身とび</p> <p>【C】 ■ 台上前転・頭はねとび・前方倒立回転とび</p>	<p>・とび箱運動の場を3箇所設定をし各場ごとに、お互いに協力をして学習活動をする。</p>	<p>・用具や器具の安全について配慮する。</p> <p>・学習の資料がうまく活用できるように援助する。</p> <p>・真剣に取り組む姿勢の重要性に気づかせる。</p>	<p>・多くの生徒に接し学習課題につまずいている生徒に対し、適切な助言をする。</p>
	<p>【平均台】</p> <p>【A】 ■ 歩行・走行（前後横）ツーステップ、いろいろなあがり方、おり方</p> <p>【B】 ■ かかえ込みとび前後開脚とび、伸身とび、V字水平バランス（ポーズ）連続技</p>	<p>・平均台運動の場を2箇所設定して各場ごとに、お互いに協力をして学習をする。</p>		<p>・各場で課題の取り組みにつまずいている生徒に対して適切な助言をする。</p>
<p>・個別による学習を行う。</p>	<p>・各種目の場とは別の場で練習する</p>			
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめと次時の確認（班および個人） ・整理運動 ・用具のかたづけ ・あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで学習ノートを使用して本時の評価をする。 ・本時の評価を通して次時の課題を立てる。 ・各グループで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価ができているかどうかを確認する。 ・次時の課題が設定できているかどうかを点検する。 ・とくに使用した部分を十分に行わせる。 ・健康の状態を点検する。 	

(7) 資料

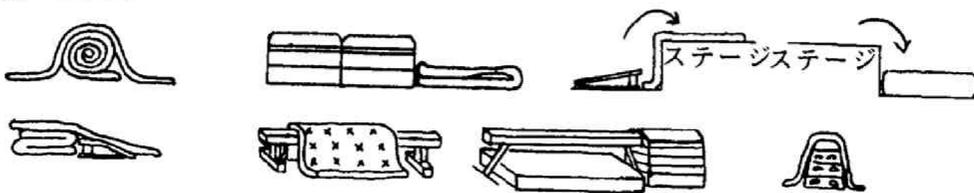
① 器具の配置図



② 器具の配置例



③ 器具の工夫例



(8) 本時の結果と考察

① 結果

- ア 種目や技を生徒一人一人が選択することにより、種目や技の特性をより深く知ることができ、楽しく意欲的に取り組むことができた。
- イ 学習の過程で、資料を活用してポイントを確認しながら学習することができた。
- ウ グループ学習の中で、生徒が相互の課題を解決するために、お互いに教え合い、励まし合う姿が見られるようになった。
- エ VTRを使用したことで、生徒一人一人が課題を見付けることができ、さらに意欲的に取り組むことができた。
- オ VTRを見ながら、適切な助言をすることにより、できなかった技ができるようになった。また、新しい技にも意欲的に挑戦するようになった。
- カ 学習カードを活用することにより、生徒の目標や課題がわかりやすくなった。また、自己評価もしやすくなり、課題解決に役立った。
- キ ティームティーチングによって、細かい指導や声かけも多くでき、生徒一人一人が楽しく意欲的に学習できた。
- ク 器具・用具の数や配置、場の工夫によって運動量が確保でき、安全に学習することができた。
- ケ ティームティーチングによって、より安全性が高まった。

② 考察

- ア 種目選択グルーピング・学習カードの活用の仕方等のためのオリエンテーションは、楽しく意欲的に授業を進めるためにはとても重要である。
- イ 男女混合のグループにすることは、補助や年齢的なことなど難しい問題があり、男女共習でありながら、学習内容を考えるとグループ編成に工夫が必要である。
- ウ ティームティーチングにより、生徒一人一人への課題解決のための適切な助言が多かった。
- エ VTRを利用することで、生徒一人一人の課題がより明確になり、意欲的な学習に役立ったが、短時間で効果的に利用できるVTRの工夫が必要である。
- オ ティームティーチングや器具・用具の数や配置、場の工夫によって運動量は確保できるが、安全面の指導は事前に十分しておく必要がある。

3. 球技（バレーボール・バスケットボール・バドミントン）

(1) 意識調査の結果と考察

① 意識調査について

ア、目的：生徒の興味関心を把握し、選択制授業の展開を考え、楽しく意欲的に学習に取り組ませる指導の資料とする。

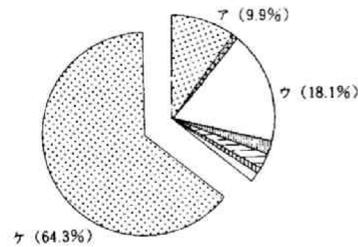
イ、時期：平成5年7月

ウ、対象：研究所所属校 第2学年 男子 249名 女子 225名 計 474名

② 結果

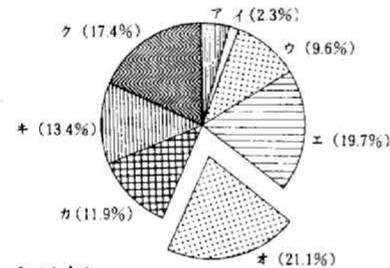
Q 1. 体育（実技）で一番好きな種目

	男子	女子	合計
ア、陸上競技	9.0%	10.8%	9.9%
イ、体操	0.4%	1.3%	0.8%
ウ、水泳	14.2%	22.1%	18.1%
エ、器械体操	2.4%	2.2%	2.3%
オ、柔道	4.1%	0.9%	2.5%
カ、剣道	0.8%	0.4%	0.6%
キ、相撲	0.4%	0%	0.2%
ク、ダンス	0.4%	2.2%	1.3%
ケ、球技	68.2%	60.2%	64.3%



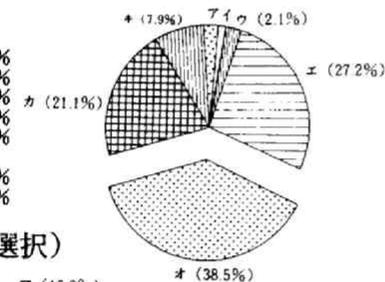
Q 2. 一番好きな球技の中で、授業中に楽しいとき、やる気のあるとき（2つ選択）

	男子	女子	合計
ア、先生から適切なアドバイスが受けられたとき	6.0%	3.4%	4.7%
イ、友達から適切なアドバイスが受けられたとき	3.0%	1.4%	2.3%
ウ、先生や友達からほめてもらえたとき	10.5%	8.7%	9.6%
エ、みんなで協力・団結できたとき	13.3%	26.7%	19.7%
オ、ゲームができるとき	25.7%	16.7%	21.1%
カ、自分が活躍したとき	11.2%	12.6%	11.9%
キ、ゲームをして勝敗を争っているとき	16.7%	10.1%	13.4%
ク、チームのメンバーがよい（おもしろいチーム）	13.6%	21.3%	17.4%



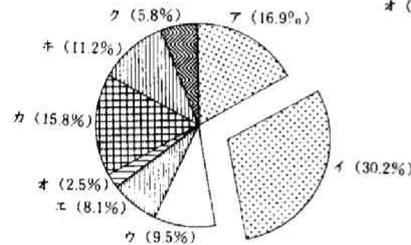
Q 3. 一番好きな球技の中で、授業中に楽しくないとき、やる気のないとき（2つ選択）

	男子	女子	合計
ア、先生から適切なアドバイスが受けられなかったとき	1.9%	1.5%	1.7%
イ、友達から適切なアドバイスが受けられなかったとき	2.2%	0.8%	1.5%
ウ、先生や友達から教えてくれないとき	1.9%	2.3%	2.1%
エ、自分がミスをしたとき	28.5%	25.9%	27.2%
オ、チームで協力しない人がいたとき、まともでない（チームワークがない）とき	37.4%	39.7%	38.5%
カ、みんながやる気をなくしているとき	18.6%	23.6%	21.1%
キ、チームが大差で負けているとき	9.4%	6.3%	7.9%



Q 4. 男女一緒にやるとすればどの球技がよいか（2種目選択）

	男子	女子	合計
ア、バスケットボール	18.5%	15.2%	16.9%
イ、バレーボール	27.8%	32.9%	30.2%
ウ、ソフトボール	9.1%	9.9%	9.5%
エ、サッカー	10.1%	5.9%	8.1%
オ、ハンドボール	2.8%	2.1%	2.5%
カ、バドミントン	13.4%	18.5%	15.8%
キ、卓球	12.5%	9.7%	11.2%
ク、ソフトテニス	5.8%	5.7%	5.8%



③ 考察

ア 球技が一番好きだと答えた生徒は64.3%おり、楽しいことがその理由としてあげられる。

イ 授業中楽しいと感じるのは、よいメンバーで団結しながらゲームができることであり、

加えて、自分が活躍し勝敗を争うときに楽しさが増す。

ウ 体育が楽しくない理由として、チームワークが悪く、自分のミスがチームメイトから批判の対象になるときがあげられる。

エ 生徒の意識の中には、バレーボール・バスケットボール・バドミントンならば、男女共習においても楽しく学習できるだろうと予想している。

(2) 特性

① 一般的特性

＜バドミントン＞ ラケットでシャトルコックを打ち合う面白さに加え、そのシャトルの微妙な速度の変化によって男女混合などの形態でも行いやすく、必ずしも体力や年齢、性別によって勝敗が決まるとは限らないために、手軽に楽しむことができる。

＜バレーボール＞ ネットを挟んでボールを床に落さないように行うスポーツである。ネットの高さを調節することで、ある程度の難しさの調節が可能である。一人で続けてボールに触れられないために、チームワークが必要となる。

＜バスケットボール＞ 複数のプレーヤーが敵味方入り乱れて行う。ターンオーバーが起こりやすく、激しい動きと、瞬時の判断が必要とされる。ゴールは頭上にあり、得点には微妙なコントロールが必要とされる。走・跳・投が絶えず起こり、運動量も多い。

② 生徒から見た特性

＜バドミントン＞ 用具を使って簡単に打ち合え、気軽に取り組める。

＜バレーボール＞ ボールを手で扱う痛みはあるが、チームワークによって盛り上がり、楽しめる。

＜バスケットボール＞ シュートチャンスが多く、シュートが入ると面白い。動きが激しく、展開も速く、熱中して参加しやすい。

(3) 指導計画作成上の留意点

- ① 地域や学校の実態及び生徒の心身の発達段階や興味関心・特性を十分考慮する。
- ② 特性に触れる楽しさが、運動に親しむ習慣を育てる大きな要因である。という考えを基に興味や関心を生かすため、選択制、男女共習を取り入れることを考慮する。
- ③ ティームティーチングを取り入れることによって、生徒選択の幅を拡げ、個別指導を充実させるための配慮をする。

(4) 学習指導の工夫

- ① チームリーダーを中心に自主的・自発的な学習を心がける。
- ② ゲームを毎時間始めに設定することにより、課題をつかんで練習できるようにする。
- ③ 記入の容易な学習カードを工夫し、各自の課題をつかませ、自ら評価できるようにする。
- ④ ティームティーチングを生かした授業方法、授業形態を工夫する。
- ⑤ 生徒の提案や発想を生かしながら、意欲を引き出すよう心がける。
- ⑥ 授業場所が広範囲になるため、場の工夫や安全面への配慮や指導を十分行う。

(5) 選択制「球技」指導計画（第2学年）（20時間扱い）

学習方法（男女共習，領域内生徒選択）

- ・球技の中から生徒アンケートにより，バスケットボール・バレーボール・バドミントンの3種目の中から生徒選択をさせて，1種目を学習する。
- ・Ⅰ期，Ⅱ期，Ⅲ期に分ける。

学習のねらい（課題を見つけ，楽しく意欲的に練習・ゲームをする）

- ①Ⅰ期－ゲームを通して球技の特性を知ると共に，自分の課題をつかむ。
- ②Ⅱ期－（前期）自分の課題を中心に練習し，ゲームで確かめる。
（後期）個人技能を高めると共に，集団技能の練習をし，作戦を考えゲームに生かせるようにする。
- ③Ⅲ期－自分たちで，各球技のリーグ戦・対抗戦を行い，特性に触れる楽しさを味わう。

時間配分と内容

段階時間	①Ⅰ期 1 2 3	②Ⅱ期（前期） 4 5 6 7 8 9	Ⅱ期（後期） 10 11 12 13 14 15	③Ⅲ期 16 17 18 19 20
内容	簡易ゲーム。楽しく行うためのルールの話し合い。	個々の課題に応じて技能を身につける。学習資料・学習カードを活用する。	チーム課題を見つけ技能を身につける。学習資料・学習カードを活用する。	自分たちでリーグ戦・対抗戦を行うチームの作戦をたてる。

段階	学習活動	教師の動き(T1・T2)
①Ⅰ期 楽しくゲームを行うために 何が必要か見つける期間	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームづくり ・学習の流れ ・種目の特性 ・簡易ルール <p>試しのゲーム 個人技能（課題）の確認 学習方法を知る 簡易ルールの確認</p> <p>ゲーム（自己ルール） 個人の課題 課題別練習 自己評価</p>	<p>教師の動き(T1・T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> * T1グラウンドでバレー，バスケットボール T2体育館でバドミントンを主に見る。 * T1があるグループの集中指導を行い，T2が他のグループの指導を行う。 <p>○教師の働きかけ ●評価の観点</p>
②Ⅱ期 前期・後期 ゲームを楽しむ上で必要な課題を 見つけ習得する期間へ個人・集団	<p>チームづくり ルールの確認と変更 学習資料の活用・工夫 学習カードの利用 声かけ，アドバイス</p> <p>ゲーム①（公式ルール） チームの課題 集団技能練習 （ゲーム②） 評価</p>	<p><Ⅰ期></p> <ul style="list-style-type: none"> ○グルーピングを考慮する。（男女の能力差等） ○全員が協力して準備させる。 ●協力して準備，話し合いができたか。 ●ゲームのための必要なルールや技能がわかったか。 ●個人の課題を明確につかめたか。 <p><Ⅱ期（前期）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○リーダーに練習計画，方法を助言する。 ○平均したグルーピングを考慮する。 ○学習カードにより個人の課題や練習内容を確認，話し合いの援助やアドバイスをする。 ○生徒間の声かけ，アドバイスが意欲や練習成果を高める事をアドバイスをする。 ●リーダーを中心に協力，話し合いができたか。 ●学習資料がうまく活用できたか。 ●個人技能の必要性がわかり向上する意欲が持てたか。 <p><Ⅱ期（後期）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○チームのねらいを認識させる。適切でないときは資料の活用をアドバイスする。 ○チームの反省が適切か声かけをする。 ○ゲーム中の係活動に適切なアドバイスをする。 ●集団の課題が明確につかめたか。 ●チームメイトに声かけやアドバイスができたか。 ●係活動がしっかりできたか。 （●練習課題がゲーム②に生かされたか）
③Ⅲ期 練習してきた成果が生かされた ゲームを行う期間	<p>リーグ戦・対抗戦の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が協力する ・ルールの決定 ・審判・得点・計時等の係分担 ・ゲームの工夫・作戦 ・スムーズなゲーム運営 <p>*学習のまとめ</p>	<p><Ⅲ期></p> <ul style="list-style-type: none"> ○企画に無理がないか話し合い活動をさせる。 ○ルールの確認をさせる。 ●ゲームの適切な作戦がたてられたか。 ●係活動が無理なく，ゲームが円滑に行われているか。 ●リーダーを中心に全員が協力してゲームができたか。

(6) 展 開 例 (20時間中の6時間)

本時のねらい

- ・ゲームにおいて、個人技能の課題を明確につかむ。
- ・各種目で種目のリーダーを中心に練習方法を決定し、協力して練習に取り組む。
- ・課題別に協力し、楽しく安全に練習する。

	学習内容及び学習活動			教師の働きかけ	評価の観点
導 入 10 分	整列・あいさつ・出欠確認 学習内容の確認 チーム毎にストレッチングをする。 用具の準備			健康状態を観察する。 本時の流れを説明する。 ストレッチングのポイントが守られていない場合は、助言をする (T1はグラウンドでバレーボールとバスケットボール、T2は体育館でバドミントンの指導をする。)	協力して準備ができたか
展 開 35 分	バレーボール 8分間のゲームを行う。(計2ゲーム)	バスケットボール 8分間のゲームを行う。(計2ゲーム)	バドミントン 7点ゲームを行う。(1コートにつき2ゲーム)	各種目のゲームを見て、個人技能について声かけやアドバイスを与える。 学習カードに記入された課題を確認し必要なアドバイスを行う。リーダーへの援助をする。 練習方法が適切か確認し、声かけ・アドバイスを行う。 練習場が適切か確認し、必要ならば助言する。 各種目の練習を見て回り、声かけ・アドバイス・個別指導を行う練習が円滑に行われるように援助をする。 T1はバレーボールとバスケットボールを中心に、T2はバドミントンを中心に各種目の練習を見て回る。 練習中、安全に留意するよう声をかける。特にボールやシャトルが足もとにあるまま、練習を続けないように注意する。 練習に必要な用具がある場合(ゲームベスト、ストップウォッチなど)、種目のリーダーに確認し準備する。	ゲームが円滑に行われているか。 個人の課題が明確につかめているか。 リーダーを中心に話し合いができてきているか。 学習資料は活用されているか。 練習方法は適切か。 課題別の班で協力して練習ができているか。 お互いに声かけやアドバイスをしながら楽しく練習することができているか。 練習方法が工夫されている。
ま と め 5 分	本時のまとめ・評価 学習カードに記入する。 次回の確認 あいさつ 片付け			健康の状態を点検する。 片付けの状況を確認する。 まとめ・評価について助言する。	個人の課題について練習できたか。 次のゲームでの課題をつかめたか。

(7) 資料

保健体育 学習カード

2年 組 番氏名 _____

ゲームの感想

1		11	
2		12	
3		13	

個人課題

チーム課題

4		8	
5		9	
6		10	
7		11	
8		12	
9			
10			

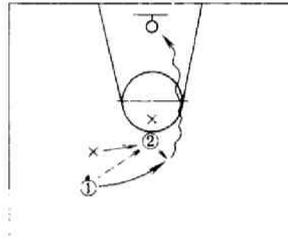
自己評価 よくできた…A できた…B あまりできなかった…C

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
協力して準備ができたか																					
係活動ができたか																					
話し合いが円滑にできたか																					
課題がつかめたか																					
課題に適した練習ができたか																					
お互いに協力して練習できたか																					
アドバイスや声かけができたか																					
学習資料が活用できたか																					
楽しく意欲的にできたか																					
協力してかたづけができたか																					

バスケットボール (チーム練習例)

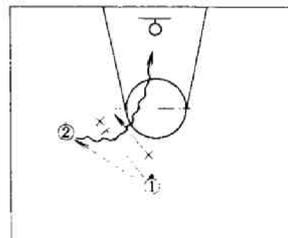
スクリーンプレイ (アウトサイド)

- ①が②にパスをする。
- ①は②の外側に移動しパスを受ける。その際、自分のマークマンを②にぶつけてドリブルを使いペネトレイトする。



スクリーンプレイ (インサイド)

- ①が②にパスをする。
- ①は②のマークマンの内側からスクリーンをかける。
- ②は①のスクリーンを利用してドリブルインを行う。

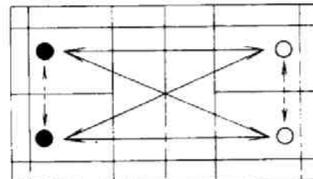


- …オフェンス
- × …ディフェンス
- …パス
- ↘ …ドリブル
- …動き
- ⊥ …スクリーン

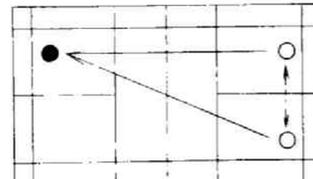
バドミントン 資料3 練習法

(1) フライット別練習 ……人の動き

① クリアー (ストレート・クロス)



② スマッシュ (ストレート・クロス)



— フライット (シャトルの動き)

(8) 本時の結果と考察

① 結果

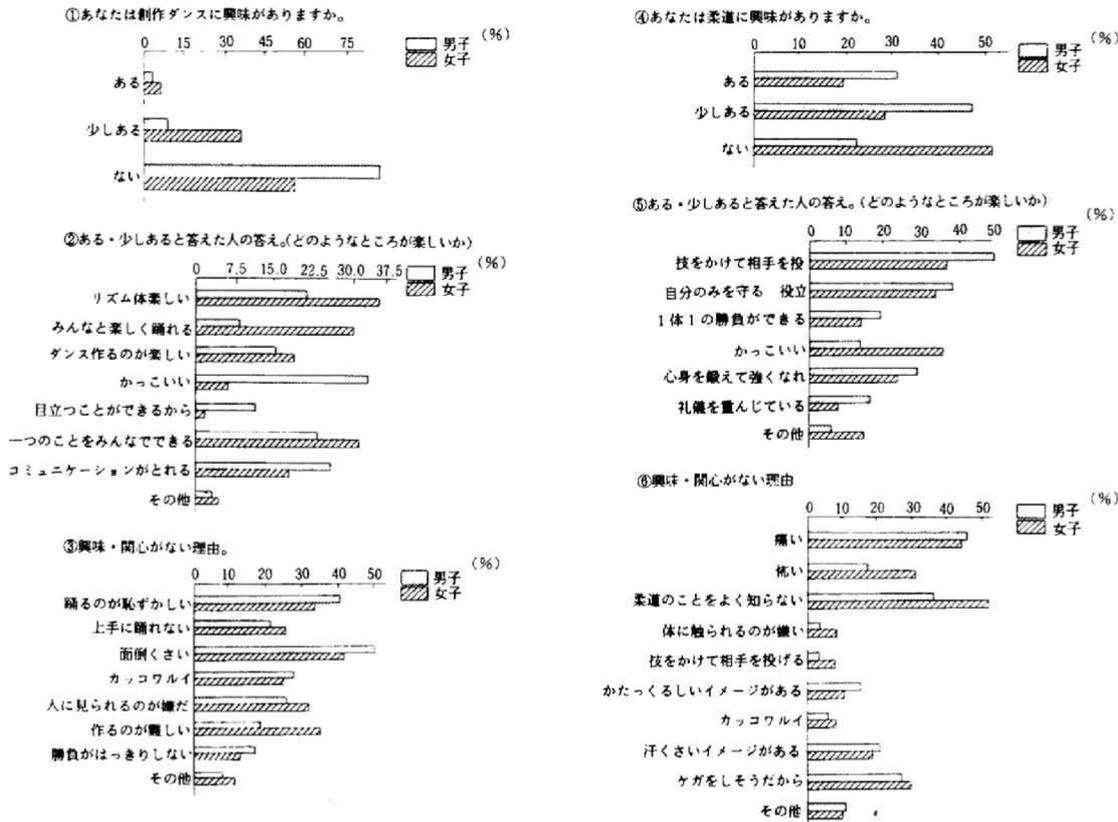
- ア 授業の始めにゲームを行い、学習カードに記入させることで個人課題の確認が容易になり、同じ課題を協力して解決することができた。
- イ リーダーを中心にグループ学習をさせたところ、学習資料を活用して自主的な学習活動ができるようになった。
- ウ 授業をゲームから始めることによって興味・関心を高めることができ、種目の特性を理解することができた。
- エ ティームティーチングを実施することで、課題別・個別指導を充実することができた。
- オ 生徒自らが選択した種目であることと、毎時間ゲームを体験し、ゲームに必要な個人・集団の課題をつかませたので、課題を解決するための活動に意欲的に取り組むことができた。
- カ 当初から男女共習を条件とした種目を設定したため、スムーズに共習に取り組むことができた。

② 考察

- ア 授業をゲームから始めたことは、個人の課題やチームの課題、必要な練習やその取り組み方が具体的になり、生徒が意欲的に課題の解決に取り組むために有効である。
- イ 2人で3種目を開設し、体育館と校庭で行ったが、安全を確保しながら、効果的に助言・援助を行うためには、教員相互の意志の疎通や情報の交換・役割分担の仕方に工夫が必要である。
- ウ 1種目当りの生徒の人数が少ないために、チームの課題を解決する練習に進むと相手が必要となり、ゲームに近い形式での練習が多くなったが、その際、練習の目的を忘れないように配慮することが大切である。
- エ リーダーを通して、助言・援助を行うように配慮したことは、活動の中心となるリーダーの育成に有効である。
- オ ティームティーチングを行うことは、個別に助言・援助・声かけを行う機会が増え、学習効果を高めるのに有効である。また教員にとっても、互いに足りない面を補いあうことができる。
- カ 種目によっては、男女差が大きくでる可能性もあるが、チーム分け・場の工夫などによってその差を小さくすることができる。

4. 武道・ダンス

(1) 実態調査の結果と考察 標本数男子453人、女子378人、合計831人（公立中学校5校）



<ダンス考察>*①~③

- ① ダンスの興味・関心については、予想通り男子の数値が低いことが顕著に表われている。また、この調査対象の女子に至っても、興味・関心があると答えた生徒の数値が意外に低い。ダンス学習の動機付けの工夫などが必要である。
- ② 音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを知っている生徒は、男女とも興味・関心をもっている。しかし、多くの生徒は、面倒くさい、恥ずかしいなどの理由からダンスに対する興味・関心が低い。音楽に合わせて体を動かすことや動きを作る楽しさを、より生徒に味わわせる指導の工夫が大切である。

<柔道考察>*④~⑥

- ① 柔道での興味・関心は、男子は高く、女子もやってみたいと思っている生徒が多く見られる。相手に技をかけたり、投げたりする柔道に男女とも興味・関心を示している反面、柔道は痛いというイメージが一部の生徒には根強くある。相手との技の攻防の楽しさを味わわせることが必要である。

(2) 特性

① 柔道の一般的特性

ア. 我が国固有の文化として伝統的な行動様式や礼儀を重んずる。

イ. 直接相手と組んで、自分が習得した「技」を生かして、攻撃をしたり相手の攻撃を防いだりしながら、互いに競い合うことを楽しむ。

② 生徒からみた柔道の特性

ア. お互いに習得した「技」を生かし、攻防することが楽しい。特に、自分より大きい相手や力の強い相手を投げたり、抑え込んだりすることが楽しい。

イ. 相手に技をかけられることが怖い。 ウ. 相手に投げられると痛い。

③ ダンスの一般的特性

ア. 表したいイメージや思いを自由に表現し、リズムに合わせて体を動かすことの楽しさや、踊りをつくる喜びを味わう。

イ. 世界各地で文化として伝えられてきた独特な動きやリズムをとおして踊る楽しさを味わう。

④ 生徒からみたダンスの特性

ア. 仲間とともに楽しく踊れる。 イ. リズムにあわせて体を動かすことが楽しい。

ウ. 踊るのが恥ずかしい。 エ. 作品を作ることが難しい。

(3) 学習指導の工夫

① ティームティーチングの活用

柔道では、複数の教師が投げ技などの選択コースを開設し、生徒個々の興味や関心に応じた指導ができるように工夫した。ダンスでは、主に授業全体をみる教師と、VTRを活用する教師とに役割を分担するなどして、それぞれの教師が異なる角度から生徒一人一人をとらえ、指導できるように工夫した。

② 特性に触れる楽しさを味わわせる工夫

柔道では、技をかけて相手を投げる楽しさを味わわせるために、得意技を身に付けさせるように工夫した。ダンスでは、身近にある物からの模倣運動やスポーツを題材にした動き作りを通してダンスの楽しさを味わえるように工夫した。

③ 課題をつかませる工夫

VTRを活用して学習内容を知らせるとともに、T・Tによる技や動きの魅力を見せることによって、生徒の興味・関心や意欲を引き出し課題をつかませるようにした。

(4) 指導計画

① ダンス

	1～2	3	4	5～7	8～10	11	12～13	14	15
授業内容	・オリエンテーション・ビデオによるダンス紹介、イメージ作り ・グループ分け	・リズムに合わせて楽しく踊る ・模倣運動 * 教師に合わせた模倣運動	* 2人一組での模倣運動	・音楽に合わせた身体の動きの発見 * 新聞紙等 ・表現作りの練習 * スポーツなどの身近な課題を見つけて表現する	・作品作り * テーマを決めて全体の構想を練る * 動きを作る	・中間発表	・作品の踊りこみ * イメージの表現や動きの流れの確認	・発表会	・まとめ * ビデオ鑑賞反省
TT	主・副	主・副	主・副	主・副(主・主)	主・主	主・副	主・主	主・副	主・副

※TT=チームティーチングの方法 (主・副…一人が全体的(主)指導を行い、もう一人が補助的(副)指導をする。
(主・主…二人が分担を決めて、それぞれに分担したところを主に指導する。)

② 柔道

時	学 習 内 容	教師の働きかけ	T・T	課 題
1	オリエンテーション1 (柔道・ダンス選択のためのオリエンテーション)	○個人の興味・関心に応じて選択できるようにする。	主・副 ↓	
2	オリエンテーション2 (班編成)	○等質グループ	主・副 ↓	
3	<基本動作の練習> 技の紹介……一斉指導	○受け身の基礎・基本を習得できるように援助する。	主・主 ↓	課題をつかむ ↑
4	受け身・崩し方・体さばき	○投げ技を見せて選択の参考になるようにする。 ○適切な受け身ができていないか観察助言する。 ○崩し、体さばきを理解できるようにする。	↓	
5			↓	
6	投げ技の選択 (個別学習①…自己や班の課題をもち、技に挑戦する)	○生徒の興味・関心に応じて技の選択をできるようにする。 ○技のポイントを理解できるようにする。	主・副 (主・主)	課題解決に取り組む ↑
7	<技をいくつでも選択できる> 背負い投げ・大腰・支え釣り込み足・大外刈り	○各コースを回り、崩し、体さばきをできるように援助する。	↓	
8	※どの技も左右とも投げることができるように練習する	○動きの中で技をかけられるように助言する。 ○安全に行えるように配慮する。	↓	
9	連絡変化の技の練習 (個別学習②…新しい技に挑戦したり、得意技を身につける)	○連絡変化の技が身につけられるように援助する。	↓	課題を深める ↑
10	<連絡変化の技の例> * 投げ技→投げ技 * 投げ技 →抑え技 小内刈り→背負い投げ 背負い投げ→けさ固め 大内刈り→大外刈り 大外刈り →けさ固め		↓	
11	審判法の練習 (個別練習③…自己の課題達成からより高い課題を設定し挑戦する)	○審判法を正しく理解できるようにする。 ○個人の課題達成度に応じて、課題に取り組めるようにする。	主・副 ↓	
12	※相手の動きに応じて、攻防ができるようにする		↓	
13			↓	
14	試合(体重別・団体戦) ※試合のルールを自分たちで決める	○試合の運営をみんなで協力して行えるようにする。 ○自分たちで決めたルールを守り、相手を尊重して試合ができるように助言する。	↓	課題達成度の確認 ↑
15	ア.場の広さ イ.試合時間 ウ.使ってよい技 エ.判定の仕方	○何問の技をお互いに研究できるように助言する。	↓	

(5) 実証授業指導案

<ダンス>

① 本時のねらい

- ア. 一人一人が課題にあった動きを作ることができる。
- イ. 動きの特徴を工夫し、組み合わせ楽しく踊ることができる。
- ウ. 班で男女が協力して意欲的に課題に取り組むことができる。

② 指導案 (15時間中の6時間目)

	学習の内容	生徒の動き (学習活動)	教師の働きかけ
はじめ 10分	1. 集合・出席確認 2. 本時の学習内容 3. ダンスウォームアップ	○本時の学習内容を知る ○ストレッチ ○2人一組で動く (一人の動きを他の一人が真似る) ジャンケンをし、負けたものはその組の後ろにつく	T1・2 健康観察 T1 学習内容の重点を示す T2 心身をほぐすよう助言する T1・2 リズムに合わせて踊る楽しさを味わえるようにする
な	4. 多様な感じやイメージからの表現 5. 身近な課題 (スポーツ) による表現	○先生の動かす新聞紙を自分なりに真似して体を動かす ○2人一組になり、互いに新聞紙を動かす人と、真似をする人を行う ・新聞紙の動きに合わせて身体の動きを工夫する (模倣運動) ○班ごとに一種目のスポーツを選択する ○班で話し合い、選択したスポーツを課題として、音楽に合わせてそのスポーツを表現してみる ・班長を中心に班員みんなで考え、動きを組み合わせていく ○必要に応じて先生にビデオ撮影してもらい、動きの組み合わせ作りに役立てる	T1 生徒が恥ずかしがらずにできるような雰囲気をつくる T2 楽しみながら、新聞紙の多様な動きに応じた身体の動きを工夫できるように助言する T1・2 具体的な動きの例をあげ、イメージをつかめるように助言する T1 ストーリー性があるとさらによいことを伝える T2 各班の必要に応じてビデオ撮影を行い、指導・助言する
か	<p><班の話し合いで予想される問題点とその指導のポイント></p> <p>① 男子が話し合いに積極的に参加しない…新聞紙での模倣運動において男子の工夫された動きやよかった動きなどを紹介し、男子の特徴を生かした動きがあることに気づくようにする。</p> <p>② 全員の意見がまとまらない…全員が同じ動きをしたり、一人一人違う動きを行ってもよいことを伝え、動きを組み合わせることを助言する。</p> <p>③ うまく動きが考えられない…他の人の動きを真似てみたり、鏡などに自己の動きを写すなどして、身体を動かしながら考えることの大切さを助言する。</p>		
35分	6. 小作品の発表	○班ごとに班長が中心となって発表する ○発表順 1～2～3 班の順に発表する ○互いに他の班の小作品を見合い、今後の作品作りの参考にする ○班長を中心に、鑑賞した班について一言感想を述べる ○発表が終わった班は、他の班から受けた評価を学習カードにまとめる	T1 鑑賞態度の大切さについて気づくよう助言する T2 ダンス学習の中で他の人の動きを見て学ぶ大切さを伝える T1・T2 相互評価の大切さに気づくように助言する (学習カードに記入)
まとめ 5分	7. 本時のまとめ 8. 次時の予告	○班ごとに学習カードを用いて本時の反省を行い、次時への取り組みの確認をする ○各班長が本時の感想と反省を発表する ○次時の学習内容を確認する	T1・T2 自己・相互評価が適切に行われているかを確認する T1・2 次時へむけて各班を励ます

※ 教師の働きかけ

T1・2=教師が互いに協力して行うもの。 T1=授業を中心的に進める教師。 T2=T1のサポートをする教師。

③ 評価

- ア. 一人一人が課題にあった動きを作ることができるようになったか。
- イ. 動きの特徴を工夫し、組み合わせ楽しく踊ることができるようになったか。
- ウ. 班で協力して意欲的に課題に取り組むことができるようになったか。

<柔道>

① 本時のねらい

- ・一人一人の生徒が興味・関心のある技を自ら選択して課題別学習をする。
- ・互いに教え合い、学び合う場を通して楽しく、意欲的に学習する。
- ・常に安全に行うよう留意させ、協力して練習をする。

② 学習内容

- ・グループごとに技の研究をする。
- ・背負い投げ，大腰，支え釣り込み足，大外刈りより一つの技を選択する。
- ・得意技を身に付け自由練習を行い，動きのある中で技を掛けるタイミングを覚える。

③ 学習の展開

(15時間中の6時間目)

	学 習 内 容	生徒の学習活動	教師の働きかけ										
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠の確認 ・準備運動 ・挨拶 ・学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに出欠をとり，リーダーが報告をする。 ・グループごとにリーダーが中心になり，柔軟，ストレッチ，回転運動を含めて行う。 ・グループごとに整列し挨拶する。 ・グループごとに本時に行う内容を確認する。 	<table border="1"> <tr> <td>T-1</td> <td>T-2</td> </tr> <tr> <td>・出欠の確認をする</td> <td>・健康状態の観察をする。</td> </tr> <tr> <td>T1-1・2班担当</td> <td>T2-3・4班担当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・適切な運動を行っているか観察，助言する</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・本時の学習内容が確認できているか観察する。</td> </tr> </table>	T-1	T-2	・出欠の確認をする	・健康状態の観察をする。	T1-1・2班担当	T2-3・4班担当	・適切な運動を行っているか観察，助言する		・本時の学習内容が確認できているか観察する。	
T-1	T-2												
・出欠の確認をする	・健康状態の観察をする。												
T1-1・2班担当	T2-3・4班担当												
・適切な運動を行っているか観察，助言する													
・本時の学習内容が確認できているか観察する。													
展 開 35 分	<ul style="list-style-type: none"> ・受身法の練習 ◎ グループごとの技の研究 <table border="1"> <tr> <td>3 班</td> <td>1 班</td> </tr> <tr> <td>4 班</td> <td>2 班</td> </tr> </table> <p><各班の練習場></p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 投げ技の選択 ・投げ技の見本 <ol style="list-style-type: none"> ①背負い投げコース ②大腰コース ③支え釣り込み足コース ④大外刈りコース <table border="1"> <tr> <td>支え釣り込み足コース</td> <td>背負い投げコース</td> </tr> <tr> <td>大外刈りコース</td> <td>大腰コース</td> </tr> </table> <p><各コースの練習場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理運動 	3 班	1 班	4 班	2 班	支え釣り込み足コース	背負い投げコース	大外刈りコース	大腰コース	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で後ろ受け身，横受け身前回り受け身を行う。 ・今まで学んだ技を互いに掛け合いながらポイントをつかむ。 ・選択するコースを決める。 <p><技のつまづきのチェックポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・背負い投げ…相手をうまく背負えない。 ・大腰…相手をうまく腰にのせられない。 ・支え釣り込み足…うまく倒せない。 ・大外刈り…からだが崩れてうまく倒せない。 <ul style="list-style-type: none"> ・見本を見てポイントを学ぶ ・自ら選択した投げ技の場を4箇所設定し，各コースごとにリーダーを中心に学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・コースで学習した技を使って動きの中での技を掛けるタイミングを学習する。 ①(背負い投げ 対 大腰)(支え釣り込み足 対 大外刈り) ②(背負い投げ 対 大外刈り)(大腰 対 支え釣り込み足) ③(背負い投げ 対 支え釣り込み足)(大腰 対 大外刈り) 	<p>T1-1・2班担当 T2-3・4班担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な受け身ができているか観察援助する。 ・各グループを回り，崩し，体捌きを理解できるよう援助する。 ・投げ技を見せて選択できるようにする。 背負い投げ，大腰コース担当 T1-大外刈り，支え釣り込み足コース担当 ・各コースを回り，崩し，体捌きを理解できるよう援助する。 ・動きの中で技を掛けられるように助言する。 ・安全に行えるよう配慮する。 		
3 班	1 班												
4 班	2 班												
支え釣り込み足コース	背負い投げコース												
大外刈りコース	大腰コース												
ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・整理運動 ・本時のまとめ ・次時の学習の確認 ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループごとに行う。 ・まとめと評価をする。 ・学習内容を確認する。 ・各グループごとに整列をし挨拶する 	<p>T1-1・2班担当 T2-3・4班担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分に行わせる。 ・各グループを回り観察する。 ・学習内容が理解できるようにする ・健康状態の観察をする。 										

(6) 資料

柔道学習ノート		ダンス 活動進行カード					
自己の目標 <input type="text"/>		組 班 班長名 <input type="text"/>					
☆自己評価		本時の予定	どこまでできたか(活動の記録)				
1	・自主的に自己の力を発揮して運動を楽しめたか ()	月	よかったところ				
	・みんなと協力して安全に運動することができたか ()					よくなかったところ	
	・課題解決にむけて自ら練習を工夫するなどのことができたか ()	観 点	係 名	班 長	副班長		
	・練習して技能が高まったか ()		班員名				
	・技の掛け方が理解できたか ()	1	楽しく精一杯踊ることができた				
	<本日の感想> <input type="text"/>	<先生・友達からつかったこと> <input type="text"/>	2	動きをたくさん考えることができた			
		3	自分の考えや意見を活発に出すことができた				
		4	友達の意見を聞き、工夫された動きを見つけることができたか				
		5	約束を守り協力し合って活動できた				
		5=たいへんよくできた 4=よくできた 3=ふつう 2=あまりできなかった 1=できなかった *記録簿記入する					

(7) 本時の結果と考察

① 結果

- ア 生徒一人一人が興味・関心に応じて種目を選択したので、意欲的に学習に取り組むことができた。
- イ 学習の場に資料を掲示したり、動きを見せることによって、生徒は与えられた学習情報を基に自ら学習に取り組むことができた。
- ウ 学習過程において生徒が考える場を多く設定し、グループの仲間とともに教え合い、励まし合うことによって学習効果が高まった。
- エ ティームティーチングにおいて、教師が互いの持ち味を生かすことなどによって、より生徒に個々に応じた指導ができた。
- オ ダンスではVTRを活用することによって、生徒一人一人の課題がより明確になった。
- カ 学習カードを用いて自己・相互評価を活用し、課題解決にむけて生徒が主体的に取り組むことができた。

② 考察

- ア 生徒の意識の中には、柔道は男子、ダンスは女子といったイメージがある。種目選択時においては、この実態を踏まえた上でそれぞれの種目の持っている楽しさを知らせる必要がある。
- イ 男女共習で授業を行うことは、互いに協力しながら学んでいくという点では得るものが大きい。しかし、柔道においては、男女の体力差や心理面を考慮した上で、学習形態や指導の工夫が必要である。
- ウ 種目や場に応じてティームティーチングのやり方を工夫することは、生徒が積極的・意欲的に活動を行うためには効果的である。
- オ VTRを使用することは、生徒一人一人の課題を明確にし、活動意欲を引き出すためには効果的である。より効果的な活用方法や場を工夫する必要がある。

VI 研究のまとめと今後の課題

1. 研究のまとめ

今年度の研究は、チームティーチングの指導方法を通して、生徒が楽しく意欲的に学習できる授業の工夫を主眼として研究を進めた。男女共習による選択制授業において、複数教師の役割を明確にし、生徒一人一人の課題解決にむけて教師がどのように関わり、授業を工夫するかを研究し、実証授業を行った。その結果、次のような研究の成果が見られた。

- (1) 生徒一人一人が自己の能力を発揮できる場を設定することで、自らの課題が発見しやすくなった。
- (2) 生徒一人一人が、自己の興味・関心や能力・適性に応じて、領域や種目を選択し、各運動の特性に触れる楽しさを味わうことにより、学習への意欲が高まった。
- (3) 生徒自ら課題をつかみ、課題解決に向けて努力する過程を評価することによって、新たな課題に主体的に取り組むようになった。
- (4) チームティーチングの指導において教師は、生徒一人一人の課題解決のための、よき支援者として、きめ細かく指導することができた。
- (5) グループ学習を通して、仲間とともに協力し合い・教え合い・認め合うなどの態度が育成され、より学習がスムーズに進んだ。また、学習カードを用いて、自己・相互評価を活用したことによって、課題解決への達成度が高まった。

2. 今後の課題

本研究から下記のことを今後の課題として、さらに研究することによって、より生徒一人一人に応じた指導のあり方が明確になるものと考えられる。

- (1) 学習のはじめのオリエンテーションから、1時間ごとの授業において、学習の進め方や学習の内容などの学習情報を生徒へより多く提供する必要がある。
- (2) 各運動の特性に触れる楽しさを味わわせるとともに、生徒自身が努力して自分なりにできた喜びを味わわせることも大切である。そのためには、教師のより多様な観点からの評価が必要である。
- (3) 課題解決に向けて、教師の支援のあり方をさらに研究する必要がある。
- (4) 複数教師によるチームティーチングの仕方について、さらに研究を深め、さまざまな役割分担や指導の仕方を指導計画に、より明確に示すことが必要である。